

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】H25／

京都大学

■プログラム名

「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

—以下、タイに特化した内容を主に記載ください。—

■相手大学・機関（国名も記載ください）

チュラロンコーン大学（タイ）・タマサート大学（タイ）

■主な活動内容（概要）

25 年 3 月 チュラロンコーン大学に院生 5 名派遣（専門、共同指導、SEND）、25 年 8 月 経済学研究科がタマサート大国際学部・チュラロンコーン大経済学部と部局間協定締結（タマサート大とは相互の単位付与について協定） チュラロンコーン大学に学部生 5 名派遣（異文化・語学研修、SEND）、タマサート大学に院生 10 名派遣（専門、SEND）、25 年 10 月 チュラロンコーン大学から学部生 1 名受入（専門）、東南アジア研究所がチュラロンコーン大等 9 機関と東南アジア研究コンソーシアム(SEASIA)を結成 25 年 12 月 経済学研究科とタマサート大経済学部との部局間協定締結、タマサート大学から院生 4 名受入（専門）、26 年 1 月 チュラロンコーン大学から院生 2 名受入（共同指導）

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

本事業により、全学向けのタイ語現地研修を新規に開始し、今後も継続実施の予定である。26 年度事業としては国際交流センターによるチュラロンコーン大学派遣（タイ語研修）・受入（日本語春季研修）、経済学研究科とタマサート大学の学生派遣・受入事業、第 1 回サマースクールなどが計画されている。このうちタマサート大学交換学生受入においては、初年度（25 年度）から円滑な単位互換が実現できた。ただし、受入学生に奨学金を提供する際、年度のズレにより、相手先大学における申請期間が短くなってしまった。今後、タイなど ASEAN 地域から来日する学生への奨学金の情報提供において、充分注意する必要がある。

成功事例

25 年度の経済学研究科タイ学生派遣が成功例である。11 日間の派遣に、京大側から経済学研究科長が同行、教員 3 名、学生 10 名が参加し、タマサート大学国際学部、チュラロンコーン大学経済学部と部局間交流協定に調印した。参加者はタマサート大学・チェンマイ大学の教員、元タイ国会議長・首相顧問や元外務大臣、盤谷日本人商工会議所事務長による講義を受け、政治・経済・文化など様々な視点から、タイの政治経済を包括的に学んだ。また、講義内容に関連した施設などを訪問、大都市バンコク、北部農村サマーンでのフィールド調査を通し、都市農村間のコントラストを目の当たりにすることで、派遣された学生たちはタイに関する知見を深めることができた。